

(2019 年度文化庁委託事業 成果物)

2018～2019 年度 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

民間における日本語教師養成研修（420 単位時間以上）

インターカルト日本語教員養成研究所

シラバス（授業計画）

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育概論
単位時間数	4 単位時間
必須の教育内容との対応	(1) 世界と日本の社会と文化 (2) 日本の在留外国人施策 (5) 言語政策 (7) 世界と日本の日本語教育事情 (20) 日本語教師の資質・能力
目標	日本語教育とは何か、日本語、学習者、日本語教師、言語教育などの観点から日本語教育の全体像をつかむ。
教育内容	・日本国内の日本語教育ニーズ ・海外の日本語教育ニーズ ・世界の言語教育の潮流 ・求められる日本語教師像
評価	レポート
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育事情（世界と日本）
単位時間数	4 単位時間
必須の教育内容との対応	（１）世界と日本の社会と文化 （５）言語政策 （７）世界と日本の日本語教育事情
目標	日本語教育を取り巻く社会的状況について、政策的動向や地域社会の事例をもとに概観する国内で就労する外国人や、地域で生活する外国人に対する日本語教育の現状と課題について概観し、問題点と今後の展望について考える。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本社会における外国人の動向 ・ 政策的動向 ・ 地域の日本語教室の機能、役割 ・ 日本語教育の社会的役割
評価	レポート
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式 一部グループワーク
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育事情（地域）
単位時間数	4単位時間
必須の教育内容との対応	（3）多文化共生（地域社会における共生）
目標	「地域日本語教室」では、誰が何のためにどのような活動をしているのだろうか。現状、意義、今後の可能性、課題について、活動の具体例やワークを通して考える。また、「地域」における日本語学習活動を知ることが、日本語教師にとってなぜ必要かについても考察する。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域日本語教室の枠組み、機能と意義 ・教室参加者の属性、ニーズ ・日本語ボランティアと外国人参加者の関係性 ・事例紹介 ・「学習支援」と「相互理解」 ・コミュニケーションスキル（「聴く」、「待つ」） ・活動素材 ・日本語教師が「地域」から学ぶこと
評価	レポート
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	
備考	<p>【事前課題】</p> <p>（1）居住地または勤務先の市区町村の在住外国人数、人口比、国籍、在留資格別構成</p> <p>（2）自治体による多文化共生施策、日本語学習支援策の状況について調べる。</p>

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育史
単位時間数	4単位時間
必須の教育内容との対応	（4）日本語教育史
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行われている日本語教育が、先人たちのどのような試行錯誤の上に成り立っているのかを知る。 ・特に、近現代の日本と近隣諸国の関係を日本語教育の歴史を通して理解することで、学習者について知る手がかりとする。 ・言語政策としての日本語教育史を学ぶことで今後の日本語教育のあるべき姿を考えることのできる素地となる力を養う。
教育内容	<p><u>16c～17c</u> キリシタン宣教師の自学自習の遺したもの＝秀逸な言語資料</p> <p><u>江戸時代～明治時代</u> 鎖国とオランダ商館 シーボルト→ライデン大学の日本語研究の火付け役・ホフマン 海外： 朝鮮王朝『捷解新語』（朝鮮通信使のテキスト） ハングルが日本語の表現や発音を遺す ロシア漂着民を利用した日本語研究 大黒屋光大夫、デンベイ、ゴンザ 方言を遺す 国内： 大使館外交官等の日本語学習 チェンバレン、アーネストサトウ ヘボン still 自学自習</p> <p><u>戦前 戦中</u> 加納治五郎 清国留学生（魯迅の留学）と弘（宏）文学院……口語文法研究の始まり 松下大三郎、松本亀次郎 国学＝古典文学の国文法の研究</p> <p>日本語教育に目覚めた日本政府 帝国主義のよとの日本統治国での日本語教育 大東亜共栄圏 台湾 朝鮮半島</p>

シラバス（授業計画）

	中国大陸 亜細亜諸国 <u>戦後 未来</u> 海外技術研修員のために/国際交流のために→働き手のために/児童のために・・ ・日本語教育が必要となってきた 日本語教育能力検定試験 日本語能力試験と CEFR
評価	テスト
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	『日本語教育史研究序説』 関正昭著（スリーエーネットワーク）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	文法
単位時間数	38単位時間
必須の教育内容との対応	(39) 日本語教育のための日本語分析 (43) 日本語教育のための文法体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範
目標	日本語を外国人（非母語話者）に教えるために知っておくべき日本語の構造や規則を整理することを目的とする。日本語母語話者が無意識のうちに習得してきた日本語の「規則」を意識化し、日本語を外国語として分析できる目を養っていく。後半では、日本語指導の現場で必要となる表現指導についても扱う。
教育内容	<p>第1課 <u>文法とは何か</u> 文法とは／学校文法と日本語教育文法／品詞分類／名詞文・動詞文・形容詞文</p> <p>第2課 <u>表現形式と表現意図</u> 表現形式と表現意図／基本表現形式を知る</p> <p>第3課 <u>動詞の活用</u> 国語文法と日本語文法／日本語文法の捉え方／動詞のグループ分け</p> <p>第4課 <u>動詞の活用と表現形式/テンス (1)</u> 意味＋接続の形/動詞の活用と表現形式/相対テンス/ 普通形に接続する表現形式</p> <p>第5課 <u>名詞・指示詞</u> 名詞の種類／うなぎ文／指示詞（こ・そ・あ）</p> <p>第6課 <u>格助詞</u> 格助詞の役割／格助詞の主な用法／格助詞表現比較</p> <p>第7課 <u>「は」と「が」／とりたて助詞</u> 「は」と「が」の用法比較／とりたて助詞とは</p> <p>第8課 <u>形容詞</u> 形容詞の活用／形容詞の分類</p> <p>第9課 <u>副詞</u> 副詞の種類</p> <p>第10課 <u>アスペクト (1)</u> 「～ている」の分類／金田一分類</p> <p>第11課 <u>アスペクト (2)</u> 「～ている」と「～てある」の比較</p> <p>第12課 <u>テンス (2)</u> 動作性述語／状態性述語／非過去形</p>

シラバス（授業計画）

	<p>第13課 動詞の分類 状態動詞・動態動詞／意志動詞・無意志動詞など</p> <p>第14課 ヴォイス（1）受身表現 「～れる」「～られる」／直接受身と間接受身／非情受身</p> <p>第15課 ヴォイス（2）使役表現、使役受身表現 「～せる」「～させる」／「～せられる」「～させられる」 強制使役と許可使役</p> <p>第16課 ムード（モダリティ） 対事的ムード／対人的ムード／さまざまなムードの表現</p> <p>第17課 複文 さまざまな従属節</p> <p>第18課 <u>原因・理由を表す節</u> 「～から」「～ので」「～て」</p> <p>第19課 <u>条件節（1）</u> 「～たら」「～ば」「～と」の用法</p> <p>第20課 <u>条件節（2）</u> 「～たら」と「～なら」の用法</p> <p>第21課 <u>授受表現</u> 「あげる」「もらう」「くれる」／恩恵のやりとり</p> <p>第22課 <u>可能表現</u> 可能形／能力可能と状況可能／「～ことができる」</p> <p>第23課 <u>変化表現</u> 「～くなる」「～になる」「～ようになる」「～なくなる」／変化動詞</p> <p>第24課 <u>敬語</u> 尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ（丁重語）・丁寧語・美化語 敬語の使い方</p>
評価	テスト
使用テキスト	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫著 （スリーエーネットワーク）
授業形態	講義形式
参考図書	『現代日本語文法①～⑦』日本語記述文法研究会編（くろしお出版）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	音声
単位時間数	24単位時間
必須の教育内容との対応	(39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声体系
目標	日常気づかれにくい話し言葉の特徴を知り、学習者の発音を音声学的に分析するための基礎的な力を身に付け、日本語教育的にどう対応していくか理解することを目標とする。音声記号や名称の暗記だけに心を砕くのではなく、その背景にある原理を理解する。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス、五十音図とその拡大表 ・ 話し言葉の語形、母語の干渉、誤用分析 ・ 母音の分類、子音の分類①、アクセントの感覚と表記① ・ 子音の分類②、アクセントの感覚と表記②、アクセントの式と型 ・ 中間試験、イントネーション、唇音退化・ハ行転呼、四つ仮名 ・ 拗音・環境による音声変化、プロミネンスとポーズ ・ 音節構造、音声教育の現状、まとめと復習
評価	テスト
使用テキスト	『日本語教育 よくわかる音声』松崎寛、河野俊之著（アルク）
授業形態	講義形式 グループワーク
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	語彙
単位時間数	16単位時間
必須の教育内容との対応	(39) 日本語教育のための日本語分析 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (44) 日本語教育のための意味体系
目標	日本語の語彙全般に関する知識、および、語彙教育の対象である「語彙項目」を分析する能力を身につける。個々の語彙項目の持つ用法を詳細に観察・分析する力を養うとともに、それを日本語語彙全体の中で位置づけて考える習慣を身につけることを目的とする。 また、学習者（非母語話者）の立場に立って、彼らにとって困難な点や誤用を予測し、より効果的な語彙指導の方法を自ら考える力をつける。同時に、既存の語彙資料や語彙教材に実際に目を通し、それらを評価する目を養う。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「語彙」「語彙教育」「語彙力」とは何か ・「語彙項目」をとりまくことから (音声、文法、意味、表記、言語行動、……) ・語彙のレベル感をつかむ（日本語能力試験を参考に） ・語の意味・用法について考える（誤用分析をもとに） ・各種語彙資料紹介（国語辞典を中心に） ・参考文献紹介 ・語を教える・・・語彙調査、単位切り ・さまざまな言語単位について ・語彙教育について (レベルによる内容の違い、語彙教育の方法、語彙学習教材、など) ・語彙項目分析練習（意味分析、用法分類、類語比較分析、例文の妥当性、など） ・まとめ
評価	テスト
使用テキスト	『日本語教育 よくわかる語彙』秋元美晴 ほか著（アルク）
授業形態	ゼミ形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	文字表記
単位時間数	16単位時間
必須の教育内容との対応	(39) 日本語教育のための日本語分析 (41) 日本語教育のための文字と表記
目標	<p>日本語学習の4つの技能のうち、「読む、書く」を担う文字（表記）を、まず日本語学習者に教えるものとしてとらえることから始める。</p> <p>教える際に持っていなければならない基本的知識を習得し、学生が実際に読める、書けるようになるためにいかに教えるかが、この授業の目的である。そのために、教える場での教師の役割を中心的に考えていきたいと思う。現在、実際に使われている文字（表記）を的確に分析し、有効な「文字指導」の仕方を模索したい。</p> <p>特に、日本語学習者にとっていろいろな面で困難さを伴う漢字については、できるだけ効率的に教える方法を、見つけていきたい。</p>
教育内容	<p>基本的知識①</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語の表記の特徴/漢字について（常用漢字） <p>基本的知識②</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字について（漢字の成り立ち・六書）/漢字について（音読みの変遷・音読みと訓読み） <p>基本的知識③</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮名について（送り仮名）/平仮名について（現代仮名遣い） <p>実践的知識①</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の教え方（多様な読み・音変化） <p>実践的知識②</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の教え方（非漢字圏学習者への指導法） <p>実践的知識③</p> <ul style="list-style-type: none"> ひらがなの教え方/カタカナ語の教え方
評価	テスト
使用テキスト	『文字表記』（インターカルト日本語学校日本語教員養成研究所） 『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂）
授業形態	講義形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	言語学概論
単位時間数	6単位時間
必須の教育内容との対応	(37) 一般言語学
目標	日本語の研究について理解し各分野の方法論を身に付けるには、その基盤・前提となっている言語学について理解することが必要である。しかし、「言語学」とは何なのか（あるいは何ではないのか）ということ把握するのは意外と難しく、また用いられる概念・用語にも抽象度が高く一般的に難解であると思われるものが多い。この授業では、言語学における重要な概念や考え方について、日本語の研究とのつながりを具体的に取り上げながら身に付ける。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語と言語学 言語学の範囲/言語学は何をするか・何をしないか/言語学の目的と言語学の分野 ・ 言語の一般的特徴 記号としての言語/恣意性/二重文節性と言語の単位 ・ 日本語はどのような言語か 言語の系統と比較言語学/日本語の系統
評価	テスト
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	対照言語学
単位時間数	6単位時間
必須の教育内容との対応	(38) 対照言語学
目標	日本語の研究について理解し各分野の方法論を身に付けるには、その基盤・前提となっている言語学について理解することが必要である。しかし、「言語学」とは何なのか（あるいは何ではないのか）ということ把握するのは意外と難しく、また用いられる概念・用語にも抽象度が高く一般的に難解であると思われるものが多い。この授業では、言語学における重要な概念や考え方について、日本語の研究とのつながりを具体的に取り上げながら身に付ける。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と他の言語を比べる(1) 類型論と言語の分類／様々な言語的特徴と傾向 ・日本語と他の言語を比べる(2) 対照言語学／日本語と中国語／日本語と韓国語 ・言語学の理論と方法論 生成文法とその影響／コーパスと日本語
評価	レポート
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	社会言語学
単位時間数	12単位時間
必須の教育内容との対応	<p>(8) 社会言語学</p> <p>(9) 言語政策とことば</p> <p>(10) コミュニケーションストラテジー</p> <p>(11) 待遇・敬意表現</p> <p>(13) 多言語、多文化主義</p> <p>(45) 日本語教育のための語用論的規範</p> <p>(48) 社会文化能力</p> <p>(49) 対人関係能力</p>
目標	日本語教師として教壇に立つために必要な「社会言語学」の知識や視点を身につける。また、社会言語学的観点をどのように授業に取り入れることができるかを考える。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会言語学の視点 ことばの変化／ことばの「ゆれ」／日本語のバリエーション ・ 社会が作り出すことば 差別語／ジェンダー（性差）／役割語 ・ ことばとアイデンティティー 集団語／ウチとソト／方言／ことばの品位 ・ 日本語と日本文化 日本語の発想／高コンテクスト文化 ・ 日本人のコミュニケーション あいづち／初対面の会話／話しことばと書きことば／日本人の気配り ・ 社会言語学の理論 「ポライトネス理論」／「協調の原理」／「ポライトネスの原理」 ・ 多文化社会と多言語社会 ボーダーレス社会と言語問題／言語サービス／「やさしい日本語」 ・ 社会言語学的観点の授業への取り入れ方を考える 会話教材の紹介とその分析
評価	テスト
使用テキスト	『日本語教育能力検定試験に合格するための社会言語学10』（アルク） ⇒絶版に伴い変更予定
授業形態	講義形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	異文化理解・コミュニケーション
単位時間数	12単位時間
必須の教育内容との対応	(12) 言語・非言語行動 (13) 多言語・多文化主義 (18) 異文化受容・適応 (32) 異文化間教育 (34) コミュニケーション教育 (50) 異文化調整能力
目標	日本語教師に「異文化理解・コミュニケーション」の知識と技能が必要となる理由を考えながら、異文化理解および異文化コミュニケーションの理論について学ぶ。前半は、「文化」をめぐる言説や定義を検討し、異文化接触・異文化受容と言語習得の関係についての諸理論を学ぶ。日本語教育の場面での具体的な事例を想定しながら議論する。後半は、異文化コミュニケーションについて、「コミュニケーション」をめぐる言説や定義の検討、コミュニケーション方略についての理論を学び、日本語教育の実践の文脈で考える。同時に多言語多文化主義や複言語複文化主義、異文化間教育学など幅広く言語や文化と教育をめぐる理念および理論を学び、それが日本語教育の場面でどのように実践に関わっていくのか、具体的な事例に基づいて議論する。講義のみでなく受講者参加型の議論を主体に授業をすすめる。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化」とは何か。「文化」の定義、「深層文化」と「表層文化」、日本語教育で「文化」を教えるとはどのようなことか。 ・自民族中心主義、文化相対主義、異文化理解のために必要な態度、現象学における「エポケー」、異文化間トレランス ・異文化受容の理論。ベリーの異文化接触の4つのパターン、「同化」と日本語教育 ・異文化受容トレーニング：具体的なワークとして「カルチャル・アシミレーション」の実践 ・多言語多文化主義と複言語複文化主義—言語教育政策および言語教育の実践における事例 ・「コミュニケーション」とは何か。「コミュニケーション」をめぐる理論、様々なコミュニケーション方略とスタイル ・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、パラ言語 ・異文化コミュニケーションスキル：具体的なワークの実践
評価	テスト

シラバス（授業計画）

使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式 グループワーク
参考図書	『日本語教育能力検定試験に合格するための 用語集（改訂版）』（アルク） 『異文化理解入門』原沢伊都夫著（研究社）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	言語理解と習得
単位時間数	12単位時間
必須の教育内容との対応	(14) 談話理解 (15) 言語学習 (16) 習得過程（第一言語・第二言語） (17) 学習ストラテジー (18) 異文化受容・適応 (19) 日本語の学習・教育の情意的側面 (29) 中間言語分析 (46) 受容、理解能力
目標	外国語習得のメカニズムを明らかにする分野である第二言語習得論の基礎を学び、効果的な日本語教育について考える。また、記憶の仕組みや言語理解の過程について基礎的な事項を学び、日本語教育への応用を考える。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二言語習得研究とは ・ 中間言語の発達 ・ 母語の影響 ・ 習得順序 ・ インプット、アウトプット ・ 文法学習の効果 ・ 誤りの訂正（フィードバック） ・ 年齢の影響 ・ 外国語学習適性 ・ 動機付け、性格の影響 ・ 記憶のしくみ ・ 言語理解の過程
評価	テスト
使用テキスト	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』大関浩美著（くろしお出版）
授業形態	講義形式
参考図書	『日本語教育に役立つ心理学入門』小林明子 ほか著（くろしお出版）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	教授法
単位時間数	12単位時間
必須の教育内容との対応	(20) 日本語教師の資質・能力 (24) 教授法
目標	様々な外国語教授法を史的変遷に沿って知る。さらに、その特徴や教育効果について学び、将来の自分の日本語教育に生かす。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイキング ・外国語教授法の変遷と特徴 ・直接法の体験 ・教授法を取り入れた実際の授業 ・様々な学習者や教育現場に合わせた教授法
評価	テスト
使用テキスト	『日本語教育 よくわかる教授法』小林ミナ（アルク）
授業形態	講義形式 グループワーク ワークショップ
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	コースデザイン
単位時間数	12単位時間
必須の教育内容との対応	(23) コースデザイン
目標	日本語教育におけるコースデザインの方法を学び、効果的かつ実践的な日本語教育の計画ができるようにする。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育におけるコースデザイン（理論編） コースデザインとは何か。コースデザインの各段階で実施する「調査・計画・実施・評価」の目的や内容、その方法を学ぶ。 ・日本語教育におけるコースデザイン（実践編） コースデザインの事例研究を行う。留学生に対する日本語教育、高度専門人材に対する日本語教育、インターカルト日本語学校における日本語教育など。最後に首都東京や地域のリソースを生かした2週間の日本遊学コースをデザインしてみる。 ・日本語教育におけるコースデザイン（応用編） 学習ニーズやレディネスの異なるケーススタディから1事例を選び、グループでコースデザインを考える。 ・グループでまとめたコースデザインを発表する。また、その内容について全員で評価する。
評価	課題（発表）
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式 グループワーク 発表
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	評価法
単位時間数	12単位時間
必須の教育内容との対応	(6) 日本語の試験 (26) 評価法 (30) 授業分析・自己点検能力
目標	本講義では、評価における言語テストの役割と特徴を考察する。それとともに、日本語教師に求められるテスト作成と評価に関する基礎知識を身につけ、問題項目作成の技術を高めることを目的とする。あわせて、妥当性と信頼性の高いテスト作成のための基本的手順を確認する。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座概要説明、カリキュラムと言語テスト ・ 大規模テストと小規模テスト：テスト開発とテスト得点分布による考察 ・ テストの特性：信頼性、妥当性、実用性、真正性 ・ 言語知識と言語能力—その構成要素を考える：「文法」「文字」「語彙」 ・ 演習：「テスト作成」 ・ テスト問題の実際：出題形式や設問方法の検討 ・ 言語能力とテスト項目作成の実際：「聴解力」の考察と出題方法 ・ 言語能力とテスト項目作成の実際：「読解力」の考察と出題方法 ・ 言語能力とテスト項目作成の実際：「口頭表現力」の考察と出題方法 ・ 言語能力とテスト項目作成の実際：「文章表現力」の考察と出題方法 ・ テスト項目の精度の検証：項目分析と良問開発 ・ テスト得点の解釈と応用：平均点、標準偏差、標準得点 ・ 目標言語使用領域と発問の視点 ・ 日本語能力と Can-do statements
評価	テスト
使用テキスト	『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』伊東祐郎著（アルク）
授業形態	講義形式
参考図書	『日本語教師のための評価入門』近藤ブラウン妃美（くろしお出版）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	著作権と教科書・教材
単位時間数	4 単位時間
必須の教育内容との対応	(25) 教材分析・作成・開発 (36) 著作権
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市販教科書・教材の特徴、製作意図を知り、適切な使い方について考える。 ・日本語教育の現場に必要な著作権の知識を得る。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな市販教材の紹介、その特徴と目的に合わせた使い方を知る。 ・日本語教育関連教材出版の近年の傾向を知る。 ・日本語教育の現場に必要な著作権関係の知識の基本的なことを学ぶ。
評価	レポート
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	『Weekly J：日本語で話す6週間』加藤早苗監修（凡人社） 『日本語教育の道しるべ第3巻 ことばの教え方を知る』坂本正ほか監修（凡人社）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	言語教育の基本
単位時間数	8単位時間
必須の教育内容との対応	（20）日本語教師の資質・能力 （21）日本語教育のプログラムの理解と実践 （22）教室・言語環境の設定
目標	日本語教育を言語教育としてとらえ、一般的に外国語を指導する際に求められる知識、技能とはどのようなものかを理解する。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・直接法による言語教育の利点・欠点を振り返る。また、直接法による外国語授業を体験することにより、実施するうえで注意すべき点、配慮が必要な点などについて考える。 ・直接法の日本語教育がどのように展開されるのか、また、授業をするにあたりどのような準備が必要になるのか、など外国語教育としての日本語教育について必要な知識を身につける。
評価	課題
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式 ワークショップ
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育の実践Ⅰ（初級指導）／教育実習Ⅰ（初級）
単位時間数	初級指導60単位時間／教育実習Ⅰ68単位時間
必須の教育内容との対応	<p>（25）教材分析・作成・開発</p> <p>（27）授業計画</p> <p>（28）教育実習</p> <p>（31）目的・対象別日本語教授法</p> <p>（39）日本語教育のための日本語分析</p> <p>（47）言語運用能力</p>
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育の基本となる初級学習者に対する日本語指導ができる実践力を身につける。 ・日本語表現の導入方法を理解し、実践できる力を身につける。 ・外国人学習者に対して授業を行うことを通し、困難な点、重要なことが何かを体験的に知る。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初級日本語の授業構成を知る。 ・初級日本語指導のポイントを知る。 ・初級日本語の基本30項目の分析を行う。 ・初級授業実践に必要なスキルを知り、身につける。 ・自ら教案を書き、授業を実践する。（模擬実習、対学生実習）
評価	実習
使用テキスト	<p>『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版』（スリーエーネットワーク）</p> <p>『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説』</p> <p>（スリーエーネットワーク）</p>
授業形態	<p>講義形式</p> <p>グループワーク③</p> <p>教壇実習（模擬実習・対学生実習）</p>
参考図書	各種初級日本語教材
備考	・実習を行う前に教案相談を実施する。

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育の実践Ⅱ（中上級の指導）／教育実習Ⅱ（中上級）①語彙
単位時間数	中上級の語彙指導 8 単位時間／教育実習Ⅱ（語彙） 1 8 単位時間
必須の教育内容との対応	（2 5）教材分析・作成・開発 （2 7）授業計画 （2 8）教育実習 （3 1）目的・対象別日本語教授法 （3 9）日本語教育のための日本語分析 （4 7）言語運用能力
目標	中級以降に学ぶ語彙とはどんなものかを知り、その指導法を身につける。 中級の学生に対する授業を体験する。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中級以降に学ぶ語彙と初級語彙との違いを考える。 ・語彙の意味や使い方の分析のしかたを考える。 ・中級の学生に対して 20 分程度の授業を行う。 ・実習課題として割り当てられた語彙の教材を作成する。
評価	実習
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式 グループワーク 教壇実習（模擬実習・対学生実習）
参考図書	『大辞林』（三省堂） 『明鏡国語辞典』（大修館書店） 『現代国語例解辞典』（小学館） 『新明解国語辞典』（三省堂） 『語彙授業の作り方編』大森雅美、鴻野豊子著（アルク）
備考	・実習を行う前に教案相談を実施する。

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育の実践（中上級）／教育実習Ⅱ（中上級）②漢字
単位時間数	中上級の漢字指導8単位時間／教育実習Ⅱ（中上級）漢字4単位時間
必須の教育内容との対応	<ul style="list-style-type: none"> （25）教材分析・作成・開発 （27）授業計画 （28）教育実習 （31）目的・対象別日本語教授法 （39）日本語教育のための日本語分析 （47）言語運用能力
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ JSL 学習者（漢字圏・非漢字圏）にとって漢字学習の何が難しいかを考える。 ・ 学習者の目的に合わせた漢字授業を作れるようになる。 ・ 漢字指導のポイントについて具体的に学ぶ。 ・ モデル学生を対象に漢字実習を体験し、学習者から漢字学習について生の意見を聞く。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ JSL 学習者（漢字圏・非漢字圏）にとって漢字学習の何が難しいのか考える／漢字学習（意味がわかる・読める・かける）それぞれの意義について考える／様々な漢字テキストを実際に見てみる ・ 漢字授業の実際 <ul style="list-style-type: none"> ① 日本語学校の漢字授業を例に、カリキュラムや1回の授業の流れを紹介する ② 中級漢字テキストの1ページを例に単漢字や熟語の学習ポイント（類似表現、コロケーション、書き言葉か話し言葉か等）を考える 漢字実習のやり方について説明し、実習デモとワークシートを見せ、担当漢字を決める 課題：担当漢字の意味や単語について調べておく ・ 担当漢字や単語について調べたことを発表し、教え方を検討する 課題：実習で使用するワークシートの作成 ・ モデル学生を相手に漢字実習を行う。終了後、モデル学生からわかりやすかった点、難しかった点などについてフィードバックを受ける ・ 実習終了後、振り返り。気づいたことや疑問点をシェアし、フィードバックを受ける。
評価	実習
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）

シラバス（授業計画）

授業形態	講義形式 ゼミ形式 対学生実習（プライベートレッスン形式）
参考図書	『漢字授業の作り方編』大森雅美、鈴木英子著（アルク） 『KANJI LOOK & LEARN』坂野永理 他著(The Japan Times) 『留学生のための漢字の教科書中級 700』佐藤尚子、佐々木仁子著 (国書刊行会) 『新にほんご “生活の漢字 “漢字みつけた』『生活の漢字』を考える会著 （アルク） 『みんなの日本語初級第 2 版漢字練習帳』東京国際日本語学院著 （スリーエーネットワーク）
備考	・実習を行う前に教案相談を実施する。

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育の実践（中上級）／教育実習Ⅱ（中上級）③表現
単位時間数	中上級の表現指導8単位時間／教育実習Ⅱ（中上級）表現8単位時間
必須の教育内容との対応	<p>（25）教材分析・作成・開発</p> <p>（27）授業計画</p> <p>（28）教育実習</p> <p>（31）目的・対象別日本語教授法</p> <p>（39）日本語教育のための日本語分析</p> <p>（47）言語運用能力</p>
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初級と中級以降の教育内容の違いについて確認し、その中で表現学習の意義を考える。 ・表現項目を1つ例にとり、意味・用法・例文について分析する。 ・1人1つ表現項目を担当し、用法分析・教案作成。導入～文型提示までを模擬実習する。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初級と中級の違い／カリキュラム・スケジュール・メインテキストの作りを見つめる／表現（文型）とは何か、表現を学ぶ意義を考える。 ・表現項目を1つ例にとり、項目の意味・文法要件・例文を考え、参考書で調べてみる／練習プリントの例を見て作成ポイントを学ぶ／実習の担当項目を決める。 <p>課題：担当項目の表現分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当項目の意味・文法要件・例文・導入方法を検討する <p>課題：担当項目の実習用教案、練習プリントの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当項目の模擬実習を行い、フィードバックを受ける ・表現実習のまとめ／提出した練習プリントのフィードバック
評価	実習
使用テキスト	なし
授業形態	講義形式、ゼミ形式、模擬実習
参考資料	<p>『中級へ行こう』平井悦子・三輪さち子著（スリーエーネットワーク）</p> <p>『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子著（スリーエーネットワーク）</p> <p>『日本語文型辞典』グループジャマシイ著（くろしお出版）</p> <p>『新完全マスター文法日本語能力試験 N2』友松悦子著（スリーエーネットワーク）</p> <p>『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』友松悦子著（アルク）</p> <p>『中・上級を教える』国際交流基金日本語教授法シリーズ10（ひつじ書房）</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を行う前に教案相談を実施する。

シラバス（授業計画）

科目名	日本語教育の実践Ⅱ（中上級の指導） 中上級授業見学
単位時間数	2単位時間
必須の教育内容との対応	(25) 教材分析・作成・開発 (27) 授業計画 (28) 教育実習 (31) 目的・対象別日本語教授法 (39) 日本語教育のための日本語分析 (47) 言語運用能力
目標	日本語学校の中上級クラスの授業を見学することで、実際の授業がどのように進められるのか、学習者とどのように接しているのかなど、現場の様子を知る。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学校の中・上級クラスを見学する。（1単位時間×2クラス） ・授業のどのような点について見るか、目的を明確にした上で見学に臨む。 ・授業後に担当教師のフィードバックを受ける。 ・授業見学シートに記入し、提出。
評価	
使用テキスト	なし（見学クラスハンドアウト使用）
授業形態	授業見学
参考図書	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・見学前後の課題は以下の通り ・事前に見学の目的を明確にし、授業見学シートに記入する。 ・授業後に見学クラスの担当教師からのフィードバックを受ける。担当教師より授業の目的、意図等の説明を受け、その後質疑応答を行うことで、疑問を解決する。 ・授業見学シートの提出あり。

シラバス（授業計画）

科目名	技能別指導法 ①書く
単位時間数	20 単位時間時間中 4 単位時間
必須の教育内容との対応	(39) 日本語教育のための日本語分析
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校教育で行われる作文と JSL 学習者に必要な作文技能の違いを知る。 ・目的を明確にした作文授業が行えるようになる。 ・添削や評価の意義、方法について考える。 ・学習者の「書く」技能向上だけでなく、深い考察や表出の喜びを感じられるような授業づくりについて考える。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校教育での作文と日本語教育に求められる作文の違い／作文授業は何のためにあるか／「書く」形式のいろいろ（パソコン、タッチパネル、履歴書や書状等）／原稿用紙の表記ルール ・作文授業の実際と教師の役割 ①書く前 ②書いている時 ③書いた後／作文の評価について／さまざまな作文授業の試みの紹介
評価	(技能別指導①～⑤を合わせたの課題)
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考資料	『作文授業の作り方編』大森雅美著（アルク）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	技能別指導法 ②やさしい日本語
単位時間数	20単位時間中4単位時間
必須の教育内容との対応	(3) 多文化共生（地域社会における共生） (39) 日本語教育のための日本語分析
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・JSL 学習者の目線で日本語を捉え直し、彼らにとって日本語の何が難しいのかを知る。 ・JSL 学習者にとってわかりやすい日本語の使い方を習得し、円滑で学習者に配慮のあるコミュニケーションができるようになる。 ・身の回りの社会が外国人にとって暮らしやすいか、多文化共生の方向に向いているかを考える意識を持つ。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・滞日外国人事情／外国人からみた日本語（外国人にとって日本語の難しい点は何か）／やさしい日本語とは／やさしい日本語のあゆみ／やさしい日本語の基本ポイント ・やさしい日本語への言い換え練習・書き換え練習
評価	(技能別指導①～⑤を合わせたの課題)
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式 グループワーク 発表
参考図書	『やさしい日本語』庵功雄著（岩波新書） 『日本語という外国語』荒川洋平著（講談社現代新書） 『にほんごボランティア手帖』米勢治子 他著（凡人社）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	技能別指導法 ③読解指導
単位時間数	20単位時間中4単位時間
必須の教育内容との対応	(6) 日本語の試験 (39) 日本語教育のための日本語分析
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った読み方をいかに指導するかを考える。 ・学習者にとって何が難しいのかを知る。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む力」とはどのようなものか ・読むことによる文章理解の過程を知る。（読解過程の3つのモデル） ・さまざまな読解行動（どのような目的で「読む」のか）について考える。 ・読解のスキルについて ・読解のストラテジーについて ・「読む力」を伸ばすためにどのような練習をしたらよいか ・読解教材の作成意図について考える
評価	(技能別指導①～⑤を合わせたの課題)
使用テキスト	『読むことを教える』国際交流基金 日本語教授法シリーズ7（ひつじ書房）
授業形態	講義形式
参考図書	『中・上級者のための速読の日本語第2版』岡まゆみ著（ジャパントイムズ） 『日本語能力試験 公式問題集』国際交流基金・日本国際教育支援協会（凡人社）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	技能別指導法 ④聴解指導
単位時間数	20単位時間中4単位時間
必須の教育内容との対応	（6）日本語の試験 （39）日本語教育のための日本語分析
目標	日常生活の中でどのような聴解行動をとっているかを知り、それぞれの場面でどのような聞き方が必要であるかを考え、その指導法を知る。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の聴解行動について考える。 ・ 聞くことによる理解の過程を知る。（聴解過程のモデル） ・ 聞き取るために必要なスキルについて知る。 ・ 聴解のストラテジーを知り、どのような練習方法があるかを知る。
評価	（技能別指導①～⑤を合わせたの課題）
使用テキスト	『聞くことを教える』国際交流基金 日本語教授法シリーズ5（ひつじ書房）
授業形態	講義形式
参考図書	『新毎日の聞き取り 50 日上・下』宮城幸恵ほか著（凡人社） 『日本語能力試験 公式問題集』国際交流基金・日本国際教育支援協会（凡人社）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	技能別指導法 ⑤発話指導
単位時間数	20単位時間中4単位時間
必須の教育内容との対応	(39) 日本語教育のための日本語分析
目標	「話す」という行為について考え、その能力を伸ばすためにどのような練習をしたらよいかを知る。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す」行為のプロセスを知る。 ・話す力とはどのようなものかを考える。 ・話す力を伸ばすためにどのような練習をしたらよいかを知る。 ・リピーティング、シャドーイング、ディクテーション、ディクトグロス等についての知識を得る。
評価	(技能別指導①～⑤を合わせたの課題)
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	講義形式
参考図書	『話すことを教える』国際交流基金 日本語教授法シリーズ6（ひつじ書房） 『日本語教育の道しるべ第3巻 ことばの教え方を知る』坂本正ほか監修（凡人社）
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	ICT/電子教材の作成と使用
単位時間数	6 単位時間
必須の教育内容との対応	(3 5) 日本語教育と ICT
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育への ICT の有効活用のしかたを考える。 ・授業に活用できる電子教材を作成し、使い方を考える。 ・機器に触れることで ICT 教材に慣れ、抵抗感をなくす。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の紙の教材を電子教材に置き換えることで何が可能になるかを考える。 ・電子教材と紙の教材のそれぞれの特徴を考える。 ・電子教材作成アプリ『Finger Board』を使用し、自作の教材を作成し、発表する。
評価	課題（教材作成と発表）
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	ワークショップ形式
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	パフォーマンス基礎①落語に学ぶ日本語教育
単位時間数	6単位時間中2単位時間
必須の教育内容との対応	*必須項目外
目標	いかにして意思を伝えるか、その手段として「言語」「非言語」をどのように活用できるかを考えると、話芸としての落語のパフォーマンスから得られるものは多い。人に伝える話し方、言葉を使わないコミュニケーションの方法を落語から学ぶ。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を引き付ける話し方について考える。 ・非言語コミュニケーションのテクニックを知る。 ・提示された課題についての発表
評価	（パフォーマンス基礎①、②合わせての課題）
使用テキスト	なし
授業形態	ワークショップ形式 発表
参考図書	
備考	

シラバス（授業計画）

科目名	パフォーマンス基礎②ボイストレーニング
単位時間数	6単位時間中4単位時間
必須の教育内容との対応	*必須項目外
目標	聞きやすい話し方、声の出し方について学び、実践につなげる。発声前の緊張をほぐす方法の理解、腹式呼吸の確認・横隔膜の使い方の練習、発声時の姿勢、ブレスのしかた、唇の鍛え方、滑舌など、授業に役立つ発声法と話し方をプロのアナウンサーに学ぶ。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発声法の指導と実践 ・口の開け方の指導と実践 ・腹式呼吸の練習方法の紹介 など
評価	（パフォーマンス基礎①、②合わせての課題）
使用テキスト	なし（ハンドアウト使用）
授業形態	ワークショップ形式
参考図書	
備考	